

# 推薦図書リスト

関西学院大学文学部  
文学部長 新関 芳生

本学文学部では、大学での学びの準備として、推薦図書リストを作成しています。入学後の主体的な学びのために有益な書物を選びました。どの一冊からも知的な世界が広がると思います。皆さんも是非、読んでみてください。

## 【キリスト教学関係】

書名	名画が描く罪深き旧約聖書	旧約聖書の様々な人間の欲望を芸術で読み解く本。
著・編者名	望月麻美子、三浦たまみ	
出版社・出版年	ビジュアルだいわ文庫（2015年）	
書名	キリスト教入門	欧米の文化の背景にあるキリスト教の成立、発展と歴史を紹介する入門書です。
著・編者名	山我哲雄	
出版社・出版年	岩波ジュニア新書（2014年）	
書名	そうか！なるほど！！キリスト教	中・高等学校で既に聖書やキリスト教について学んできたが、疑問が残っていたり、第一線で活躍する専門家の声を聞きたい人のための書物。
著・編者名	荒瀬牧彦、松本敏之監修	
出版社・出版年	日本キリスト教団出版局（2016年）	

## 【情報処理関係】

書名	インターネットの光と影 被害者・加害者にならないための情報倫理入門 Ver. 5	大学生としてインターネットを活用する際に、被害者にも加害者にもならないためにも、知っておくべき「情報倫理」に関する内容を一通り学ぶことができる参考書です。
著・編者名	情報教育学研究会情報倫理教育研究グループ編	
出版社・出版年	北大路書房（2014年）	
書名	SNS別最新著作権入門 —「これって違法!？」の心配が消える ITリテラシーを高める基礎知識	著作権法の基本から、肖像権・プライバシー権についてなど、SNS活用の際に必須の知識が、わかりやすく解説されています。
著・編者名	井上拓	
出版社・出版年	誠文堂新光社（2022年）	
書名	18歳の著作権入門	大学生になると著作物を取りあつかう機会は飛躍的に増えることでしょう。この本で著作権についてあらためて学んでください。
著・編者名	福井健策	
出版社・出版年	ちくまプリマー新書（2015年）	

## 【哲学倫理学専修】

書名	哲学入門	現代の分析哲学を代表する哲学者ラッセルが、哲学の中心問題、特に認識論の諸問題を分かりやすく論じている。多くの読者に読み継がれてきた哲学入門の傑作。
著・編者名	バートランド・ラッセル	
出版社・出版年	ちくま学芸文庫（2005年）	
書名	いま哲学とはなにか	「よく生きる」ことを目指し、人間の様々な体験や思索を統合しようとしたギリシャ哲学の考え方を出発点として、現代におけるハイデガーの存在論、レヴィナスの倫理学、ロールズの政治哲学の考え方を学びながら、哲学を学ぶ動機づけを得ることができる。
著・編者名	岩田靖夫	
出版社・出版年	岩波新書（2008年）	
書名	世界哲学史（全8巻＋別巻）	新書版なので、手軽に手にとることができる。全8巻（＋別巻）と大部に感じられるかもしれないが、古代から現代まで、西洋のみならず東洋や日本の哲学を学ぶことができるし、興味のある部分を選んで読むこともできる。各巻の第1章を読めば、それぞれの時代がどのような考え方によって特徴づけられるかを把握することができる。
著・編者名	伊藤邦武 他編	
出版社・出版年	ちくま新書（2020年）	

書名	ソクラテスの弁明	ソクラテスの生き方に触れ、プラトンの思索に分け入るためには欠かせない一冊。数多いプラトンの著作の中でも、最も読みやすい。
著・編者名	プラトン	
出版社・出版年	光文社古典新訳文庫（2012年）	
書名	省察	近代的思惟の方向性を確立した著作。徹底した懐疑によって、確実な知識のありかを探り、神の存在、心身の問題にまで思索を拓ける。
著・編者名	ルネ・デカルト	
出版社・出版年	ちくま学芸文庫（2006年）	
書名	パンセ 〈1×2〉	矛盾に満ちた人間のあり方を描き出すこの本を読めば、忘れることのできない言葉がそれぞれの人に見つかるだろう。
著・編者名	パスカル	
出版社・出版年	中央公論新社（2001年）	
書名	これからの「正義」の話をしよう —いまを生き延びるための哲学	ハーバード大学の名講義（NHK教育テレビ『ハーバード白熱教室』として放送）を元にして書かれたベストセラーの邦訳。
著・編者名	マイケル・サンデル	
出版社・出版年	ハヤカワ文庫（2011年）	
書名	「問い」から始まる哲学入門	本専修教員による哲学への誘い。哲学の問いそのものの意義と哲学（特に存在論）の基本問題を概説する。
著・編者名	景山洋平	
出版社・出版年	光文社新書（2021年）	

【美学芸術学専修】

書名	大衆の反逆	「皆と同じだと安心。」「皆が良いと思っていることは良い。」民主主義が暴走するポピュリズムを予言した1929年の本。近現代の文化・芸術を考える上での必読書。
著・編者名	オルテガ 著／寺田和夫 訳	
出版社・出版年	中央公論新社（2002年）	
書名	日本美術の流れ（新装版）	日本美術の流れを、時代順に、具体的な作品を通して見ている。その中に一貫して流れる精神とは何かを問いかける。
著・編者名	源豊宗	
出版社・出版年	新思索社（2006年）	
書名	奇想の系譜	伊藤若冲や岩佐又兵衛など個性豊かな奇想の画家たちを再発見した名著である。具体的な作品を例示しながら、彼らの生い立ちや時代背景、作品の魅力をわかりやすく語っている。
著・編者名	辻惟雄	
出版社・出版年	ちくま学芸文庫（2004年）	
書名	音楽の聴き方-聴く型と趣味を語る言葉	音楽を鑑賞する意味、聴衆とはいかなる存在であるのかを問いかける。
著・編者名	岡田暁生	
出版社・出版年	中央公論新社（2009年）	
書名	フィルム・アート —映画芸術入門—	映画とはどのような芸術であるのか、多彩な視点からわかりやすく解説している。
著・編者名	デヴィッド・ボードウェル他（藤木秀朗監訳）	
出版社・出版年	名古屋大学出版会（2007年）	
書名	演劇学の教科書	演劇学の基本書。演劇を構成する多彩な要素を、歴史、社会、経済、宗教などあらゆる文脈によって分析する。
著・編者名	クリスティアン・ピエ	
出版社・出版年	国書刊行会（2009年）	
書名	不朽の名画を読み解く-見ておきたい西洋絵画70選	14世紀のジョットやシエナ派から20世紀のウォーホルやリヒターまでの西洋絵画の名作70点を選んで、作品の理解を助ける有益な知識とともに解説している。
著・編者名	宮下規久朗	
出版社・出版年	ナツメ社（2010年）	
書名	見るということ	写真や美術、さらにはアニメなどを含む視覚イメージ一般を扱いながら、「見る」ということがもつ文化的意味を明らかにしている。
著・編者名	ジョン・バージャー	
出版社・出版年	ちくま学芸文庫（2005年）	
書名	眼の神殿-「美術」受容史ノート	日本美術史がどのように形成されたのかを解説した本。明治期の欧米化政策の中で、「美術」という概念や美術館・美術学校など諸制度の需要のあり方に注目している。
著・編者名	北澤憲昭	
出版社・出版年	ちくま学芸文庫（2020年）	

**【地理学地域文化学専修】**

書名	ナチュラリストの系譜—近代生物学の成立史—	17世紀から19世紀に至る自然誌の系譜を、誰にでもわかるように説いた名著。文学部の学生にも自然科学の歴史を学んでほしい。
著・編者名	木村陽二郎	
出版社・出版年	ちくま学芸文庫（2021年）	
書名	温泉めぐり	小説家田山花袋は無類の旅行好きで知られ、数多くの紀行文を残している。およそ100年前の温泉旅行の様子が蘇る。旅行に関心のある学生にはぜひ読んでほしい。
著・編者名	田山花袋	
出版社・出版年	岩波文庫（2007年）	
書名	アホウドリを追った日本人— 一攫千金の夢と南洋進出	1つの意外な事象（アホウドリ）を探求することで、世界の変化（日本の領域拡大）がみえてくる。地理学の醍醐味を感じ取ってほしい。
著・編者名	平岡昭利	
出版社・出版年	岩波新書（2015年）	
書名	狩猟伝承	同時代を生きる日本人ながら、私たちと圧倒的に異なる文化を実践する者が身近に存在する。そのことに気づき、関心をもってほしい。
著・編者名	千葉徳爾	
出版社・出版年	法政大学出版局（1975年）	
書名	大阪 — 都市の記憶を掘り起こす	現在の都市において見ることができる様々な場所や景観を起点に、近代期の都市の残像を読み取りながら、大阪を事例として現代都市の成り立ちを読みやすい文章で振り返る。人文地理学の視点から都市を読み解く好著。
著・編者名	加藤政洋	
出版社・出版年	ちくま新書（2019年）	
書名	明治大正史世相篇 新装版	1930（昭和5）年に初版が出版された本書は、近代日本の「世相」（衣食住）が変化していく様相を描き出した好著である。近代社会史だけでなく、社会の変化を読み解く方法を学ぶ上でも、その内容は色あせていない。
著・編者名	柳田國男	
出版社・出版年	講談社学術文庫（1993年）	
書名	都市空間の地理学	様々な概念によって「都市」を説明する。初学者には難解な章もあろうが、少し背伸びをして学問の雰囲気味わってみよう。
著・編者名	加藤政洋・大城直樹	
出版社・出版年	ミネルヴァ書房（2006年）	
書名	ユルバニスム	同書は現代都市空間の問題について論じており、その思想は六本木ヒルズ開発などにも及んでいる。森稔『ヒルズ 挑戦する都市』（朝日選書）も一読されたい。
著・編者名	ル・コルビュジェ	
出版社・出版年	鹿島研究所出版会（1967年）	
書名	グーグルマップの社会学 ググられる地図の正体	「主体的」に読めばグーグルマップのようなデジタル地図は多くのことを教えてくれるという。人間と地図の関係を考えてみよう。
著・編者名	松岡慧祐	
出版社・出版年	光文社新書（2016年）	

## 【日本史学専修】

書名	シリーズ日本古代史（全6巻）	各分野の代表的研究者が綴る岩波新書のシリーズ。『農耕社会の成立』（石川日出志）、『ヤマト王権』（吉村武彦）、『飛鳥の都』（吉川真司）、『平城京の時代』（坂上康俊）、『平安京遷都』（川尻秋生）、『摂関政治』（古瀬奈津子）
著・編者名	石川日出志ほか	
出版社・出版年	岩波新書（2010～2011年）	

書名	シリーズ日本中世史（全4巻）	各分野の代表的研究者が綴る岩波新書のシリーズ。『中世社会のはじまり』（五味文彦）、『鎌倉幕府と朝廷』（近藤成一）、『室町幕府と地方の社会』（榎原雅治）、『分裂から天下統一へ』（村井章介）
著・編者名	五味文彦ほか	
出版社・出版年	岩波新書（2016年）	

書名	シリーズ日本近世史（全5巻）	各分野の代表的研究者が綴る岩波新書のシリーズ。『戦国乱世から太平の世へ』（藤井讓治）、『村 百姓たちの近世』（水本邦彦）、『天下泰平の時代』（高埜利彦）、『都市 江戸に生きる』（吉田伸之）、『幕末から維新へ』（藤田覚）
著・編者名	藤井讓治ほか	
出版社・出版年	岩波新書（2015年）	

書名	シリーズ日本近現代史（全10巻）	『幕末・維新』（井上勝生）、『民権と憲法』（牧原憲夫）、『日清・日露戦争』（原田敬一）、『大正デモクラシー』（成田龍一）、『満州事変から日中戦争へ』（加藤陽子）、『アジア・太平洋戦争』（吉田裕）、『占領と改革』（雨宮昭一）、『高度成長』（武田晴人）、『ポスト戦後社会』（吉見俊哉）、『日本の近現代史をどう見るか』（岩波新書編集部編）
著・編者名	井上勝生ほか	
出版社・出版年	岩波新書（2006～2010年）	

書名	20世紀日本の歴史学	いま激動の時代だからこそ、私たちの過去が問い直されなければならない。日本の歴史学とは何だったのか。
著・編者名	永原慶二	
出版社・出版年	吉川弘文館（2003年）	

書名	日本史の森をゆく-史料が語るとっておきの42話	東大史料編纂所の所員42人による、史料に秘められた古代から幕末までの歴史の逸話を綴る42話の短編集。
著・編者名	東京大学史料編纂所編	
出版社・出版年	中央公論新社（2014年）	

書名	高度成長-日本を変えた6000日	日本という国の姿を根本から変えた高度経済成長の時代を、多面的にかつ平易な文章で解き明かした名著。
著・編者名	吉川洋	
出版社・出版年	中央公論新社（2012年）	

## 【アジア史学専修】

書名	庶民たちの朝鮮王朝	朝鮮王朝で見られた豊かな生活文化は、中国とも日本とも違う趣きを持つ。この本では王朝時代の庶民の衣・食・住が多くの史料から再現されて読み飽きない。300年前のソウルの街を探検してみよう。
著・編者名	水野俊平	
出版社・出版年	角川選書（2013年）	
書名	海の東南アジア史—港市・女性・外来者	海によって世界を繋いできた東南アジア世界の歴史。ヨーロッパの支配の歴史として一面的に捉えがちだが、本書は現地の女性や華人とヨーロッパ人の接触、交流など多文化が融合する社会の歴史として描き直している。
著・編者名	弘末雅士	
出版社・出版年	ちくま新書（2022年）	
書名	アジアの歴史—東西交渉からみた前近代の世界像	多元的な前近代のアジアの歴史を、諸文明圏の歴史・文化的特質とそれらの相互交流を軸として明快に構図化して描いた名著。今、改めてユーラシアの過去を知る最良の手引書の一つ。
著・編者名	松田壽男	
出版社・出版年	岩波現代文庫（2006年）	
書名	天下と天朝の中国史	中国史を貫く「天下」という世界観は一体何なのか。中華と夷狄とは何を意味しているのか。東アジアの歴史の底流にある大問題を通時代的に解説し、現代中国の見方にも示唆を与える。
著・編者名	檀上寛	
出版社・出版年	岩波新書（2016年）	
書名	遊牧民から見た世界史	農耕社会を中心に語られがちな世界史を遊牧民の側から捉え直す野心的著作。地理的な視点や、民族問題に関する考察などで見せる著者の卓抜な発想に、新しい視野が開かれるだろう。
著・編者名	杉山正明	
出版社・出版年	日本経済新聞出版社（2011年）	
書名	東アジアの「近世」	前近現代の地域史は、狭小な一国史の枠で括ることができない。東アジア諸国、さらにヨーロッパの緊密な連関を、経済と軍事を軸としつつ周到な目配りのもとに描く本書は、21世紀の日本を生きる君たちにも深い示唆を与えるはずだ。
著・編者名	岸本美緒	
出版社・出版年	山川出版社（1998年）	
書名	中国ナショナリズム—民族と愛国の近現代史	日中関係が緊張する要因の一つとして、日本でしばしば指摘されるのが、中国におけるナショナリズムの高まりである。歴史学研究的観点から中国ナショナリズムを検討する本書は、今後の日中関係を考える上で、また中国近現代史を学ぶ上でも有益な一冊である。
著・編者名	小野寺史郎	
出版社・出版年	中公新書（2017年）	
書名	李鴻章—東アジアの近代	李鴻章の事績を手際よくまとめるだけでなく、中国さらには東アジアの近現代のありようを考える上でも、様々なヒントを提供する一冊。具体的な人物に即して叙述されているので、大変読みやすい。
著・編者名	岡本隆司	
出版社・出版年	岩波新書（2011年）	
書名	イスラーム-知の営み	世界第2位の人口を占めるイスラーム教徒とその歴史や文化について知ることは、現代社会の理解に欠かせない。本書はイスラーム研究の多彩なトピックを扱う「イスラームを知る」シリーズ第一巻。本書を手始めに興味のある巻を手にとって欲しい。
著・編者名	佐藤次高	
出版社・出版年	山川出版社（2009年）	

【西洋史学専修】

書名	七十人訳ギリシア語聖書 マカベア書	ヘレニズム時代ユダヤにおける文化変容とそれに対する反発であったマカベア戦争の叙述を通して、一神教とその受容や異民族、異宗教間の交渉といった一般的な問題を考察する手がかりを得てほしい。
著・編者名	秦剛平訳	
出版社・出版年	青土社（2020年）	
書名	古代ポンペイの日常生活 ――「落書き」でよみがえるローマ人	79年に火山の噴火で滅んだローマの都市・ポンペイの社会を、壁に書かれた落書きから再現する。選挙運動、公認殺人ゲームたる剣闘士競技、恋愛と肉欲・・・落書きから古代ローマの生身の世界が立ち上がってくる。
著・編者名	本村凌二	
出版社・出版年	祥伝社新書（2022年）	
書名	子どもたちに語るヨーロッパ史	フランスを代表する歴史家による手軽にヨーロッパの歴史がおさらいできる一冊。前半は『子どもたちに語るヨーロッパ』で、後半はル=ゴフの専門である中世史を扱った『子どもたちに語る中世』となっている。
著・編者名	ジャック・ル=ゴフ著／前田耕作・川崎万里訳	
出版社・出版年	ちくま学芸文庫（2009年）	
署名	論点・西洋史学	「西洋史学」が扱う「過去」とは、一意に定まるものではない。史料・分析手法・視点が変わると、過去もまた多様な姿を見せる。研究者の見解が相違する「論点」を通じて、「過去」を主体的に深く思考してみよう。
著・編者名	金澤周作 監修	
出版社・出版年	ミネルヴァ書房（2020年）	
書名	砂糖の世界史	17-18世紀のヨーロッパでは茶、コーヒーなど「飲料水革命」があったが、砂糖の歴史は、奴隷貿易という負の遺産を含めて、ヨーロッパが世界に拡大発展をとげていく過程を考察する上で欠かせない視点である。
著・編者名	川北稔	
出版社・出版年	岩波ジュニア新書（1996年）	
書名	二〇世紀の歴史	言語に絶する暴力と戦争の時代であり、同時にもっとも切実に平和を希求した20世紀とはいかなる時代であったのかを、帝国主義・植民地・世界大戦・冷戦などの切り口から論じた「世界史」の試みである。
著・編者名	木畑洋一	
出版社・出版年	岩波新書（2014年）	
書名	増補・ヨーロッパとは何か	分裂と統合を繰り返してきたヨーロッパの1500年間を俯瞰的に論じた長大な通史。
著・編者名	クシトフ・ポミアン	
出版社・出版年	平凡社ライブラリー（2002年）	

【心理科学専修】

書名	神経・生理心理学	高校生も対象にした「シリーズ心理学と仕事」の第2巻です。心と脳・身体の関係、そして脳・身体からの反応から心を探るといった興味深いテーマについて、具体例を上げつつ分かりやすく紹介されています。
著・編者名	片山順一（編著）	
出版社・出版年	北大路書房（2019年）	
書名	名誉と暴力：アメリカ南部の文化と心理	アメリカの南部と北部を、発想豊かな方法で比較し、文化的な意味づけが世代を超えて伝播することを論じた良書です。
著・編者名	リチャード・E・ニスベット、ドヴ・コーエン著／石井 敬子、結城 雅樹訳	
出版社・出版年	北大路書房（2009年）	
書名	木を見る西洋人 森を見る東洋人 思考の違いはいかにして生まれるか	北米と東アジアを、様々な実証的方法で比較し、ヒトの認知の様式が、文化的環境によって支えられ、かつ、文化的環境を作ること論じた良書です。
著・編者名	リチャード・E・ニスベット著／村本 由紀子訳	
出版社・出版年	ダイヤモンド社（2004年）	
書名	日本人のしつけと教育 —発達の日米比較にもとづいて	日米母子の行動を観察し、親の養育や義務教育が子の成長に与える影響に、文化的な価値づけが反映されることを論じた良書です。
著・編者名	東洋（著）	
出版社・出版年	東京大学出版会（2012年）	
書名	なぜ、「あれ」が思い出せなくなるのか —記憶と脳の7つの謎	身近な例と具体的な研究例を挙げながら、記憶における代表的なエラーを7つにまとめ、解説しています。記憶のエラーの基礎的な現象とその背景をわかりやすく学べる良書です。
著・編者名	ダニエル・L・シャクター（春日井晶子 訳）	
出版社・出版年	日本経済新聞社（2002年）	
書名	サブリミナル・マインド-潜在的人間観のゆくえ	「人は自分で思うほど、自分の心のことは解っていない」という中心テーマに沿って、実験心理学のおもしろさを伝えている。
著・編者名	下條信輔	
出版社・出版年	中公新書（1996年）	
書名	脳のなかの天使	脳の異常による非常に不思議な症状や簡単にできる実験から、脳のはたらきが見えてくる。脳と心の関係について、解りやすいが掘り下げて述べられている。
著・編者名	V.S. ラマチャンドラン	
出版社・出版年	角川書店（2013年）	
書名	行動分析学入門-ヒトの行動の思いがけない理由	行動分析学は行動の原因を「心」に求めない心理学である。こうしたユニークな考え方も知っておいてほしい。
著・編者名	杉山尚子	
出版社・出版年	集英社新書（2005年）	
書名	ことわざから出会う心理学	「朱に交われば赤くなる」「出る杭は打たれる」「血は争えない」といったことわざは本当なのかを心理学の興味深い研究を紹介しながら、わかりやすく再解釈している。
著・編者名	今田寛	
出版社・出版年	ミネルヴァ書房（2022年）	
書名	動物心理学入門 —動物行動研究から探るヒトのこころの世界	動物研究を通して動物とヒトを比較し、ヒトのこころの解明を目指した入門書。科学的手法を用いたさまざまな研究をわかりやすく紹介している。
著・編者名	日本動物心理学会（監修）	
出版社・出版年	有斐閣（2023年）	
書名	大学生のためのソーシャルスキル	大学生活に必要なソーシャルスキル（学習スキル、対人関係スキル、危機回避スキルなど）を詳しく説明している。
著・編者名	橋本剛	
出版社・出版年	サイエンス社（2008年）	



【日本文学日本語学専修】

書名	日本語 <上><下>	日本語の姿についての、概括的入門書。
著・編者名	金田一春彦	
出版社・出版年	岩波新書（1988年）	
書名	日本語の歴史-青信号はなぜアオなのか	「身近な疑問を着実に育て、日本語運用のメカニズムに迫る」という宣伝文句に偽りはない。
著・編者名	小松英雄	
出版社・出版年	笠間書院（2013年）	
書名	大学生のための文学レッスン 古典編	古典解釈の心得を説いた入門書。読者参加のスタイルをさらに強化した「大学生のための文学トレーニング」も刊行されています。近代文学編もあります。
著・編者名	蔦尾和宏・中野貴文・平野多恵・渡部泰明	
出版社・出版年	三省堂（2010年）	
書名	読んで楽しむ百人一首	百人一首研究の第一人者が、歌のなりたちから、詠み人の素顔に加え、料理や動植物、色彩などにまつわるエピソードを紹介してくれています。
著・編者名	吉海直人	
出版社・出版年	KADOKAWA（2017年）	
書名	源氏物語を読む	全五十四帖という長編を丁寧に読み解いた書。源氏物語の登場人物たちが織りなすドラマが鮮やかに浮かび上がります。
著・編者名	高木和子	
出版社・出版年	岩波新書（2021年）	
書名	仏果を得ず	義太夫を極めるために情熱を傾ける主人公が、芸か恋かで悩みながら、大夫として成長していく物語です。
著・編者名	三浦しをん	
出版社・出版年	双葉文庫（2011年）	
書名	日本近代短篇小説選（全6冊）	明治から昭和期にかけての文学史上注目すべき短篇小説を90篇近く収録。日本近代文学のパースペクティブが把握できる。
著・編者名	紅野敏郎、紅野謙介、千葉俊二、宗像和重、山田俊治	
出版社・出版年	岩波書店（2012年）	
書名	日本人の戦争 作家の日記を読む	日本の太平洋戦争突入から敗戦までを、その時代を経験した作家たちはどんな思いを抱いて過ごしたか？ 彼らの残した日記を通して、小説作品を読んで知るのとはまた違った戦争の顔と向かい合ってみよう。
著・編者名	ドナルド・キーン著／角地幸男訳	
出版社・出版年	文春学藝ライブラリー（2020年）	
書名	帆神—北前船を馳せた男・工楽松右衛門—	江戸時代の海運業発展に貢献した兵庫・高砂出身の海商の一代記。山片蟠桃など上方文学ともつながる歴史小説。
著・編者名	玉岡かおる	
出版社・出版年	新潮社（2021年）	
書名	超入門!現代文学理論講座	難解な文学理論が講義形式でわかりやすく解説されています。文学理論を介して作品を読む、その知的な面白さに気づかせてくれる本です。
著・編者名	蓼沼正美著／亀井秀雄監修	
出版社・出版年	ちくまプリマー新書（2015年）	

**【英米文学英語学専修】**

書名	英詩のわかり方	シェイクスピア、ロマン派、アメリカ詩、現代のアイランド詩など、各時代の重要な英詩を丹念に解説。対訳つきで、詩人とその執筆背景も紹介されており、英詩の読み方と解釈の仕方が学べる。
著・編者名	阿部公彦	
出版社・出版年	研究社（2007年）	
書名	『ロミオとジュリエット』恋におちる演劇術（理想の教室）	二人の恋は何日限り？ 恋する男はふにやふにや？ 出会って14行の口説き文句でキスするには？ 猛スピードで駆け抜ける若い二人の恋物語には、売れっ子劇作家シェイクスピアの経験（？）と才気が利いた演劇マジックが仕掛けられている。
著・編者名	河合祥一郎	
出版社・出版年	みすず書房（2005年）	
書名	吸血鬼ドラキュラ	怪奇小説の傑作だが、複合的な語りを駆使した野心作でもある。一人の乙女が衰えていく過程を追った前半、共同作業で吸血鬼と対決する後半、いずれも鬼気迫る。英米怪談翻訳の名手・平井呈一訳で。
著・編者名	ブラム・ストーカー	
出版社・出版年	創元推理文庫（1971年）	
書名	白鯨—モービィ・ディック（上）（下）	「モービィ・ディック」と呼ばれる巨大な白い鯨をめぐって繰り広げられる、メルヴィル（1819 - 1891）の最高傑作。海洋冒険小説の枠組みに収まりきれない法外なスケールと独自のスタイルを誇る、象徴性に満ちた「知のごった煮」。千石英世訳で。
著・編者名	ハーマン・メルヴィル	
出版社・出版年	講談社文芸文庫（2000年）	
書名	アメリカン・マスターピース 古典篇	19～20世紀初頭のアメリカ短編小説から絶妙に味わい深い作品を最高の翻訳者が選りすぐった作品集。
著・編者名	柴田元幸 編訳	
出版社・出版年	スイッチ・パブリッシング（2013年）	
書名	グレート・ギャツビー	豪邸に住み、週末に盛大なパーティーを開くギャツビーの素性をだれも知らない。狂乱の1920年代を背景に、アメリカの夢と野心を描く20世紀アメリカ文学の代表作。野崎孝訳と村上春樹訳を読み比べるのも楽しい。
著・編者名	F.スコット・フィッツジェラルド	
出版社・出版年	新潮文庫（1989年）、中央公論新社（2006年）	
書名	アメリカ文化入門 新版	アメリカ文化の基礎がこれ1冊で。
著・編者名	杉野健太郎編	
出版社・出版年	三修社（2023年）	
書名	脳にいだむ言語学	失語症や最近報告された家族性の言語障害・言語活動と脳活動の同時観察などを最新の言語理論を通して見ると、新しい脳科学の可能性が開けてくる。
著・編者名	萩原裕子	
出版社・出版年	岩波科学ライブラリー（1998年）	
書名	日本語はおもしろい	スッパダカとマッパダカはどう違うのか…。何げなく使われる日常の話しことばに鋭い考察と緻密な分析を加えて、意味の構造、話しことばのゆれ、言語変化のゆくえなど、日本語について話し手のひとりとしてさまざまな角度から論考する。
著・編者名	柴田武	
出版社・出版年	岩波新書（1995年）	
書名	英語の構造（上）（下）	「言語は人間に本来的に備わった能力である」という考えに基づき、実際に発話される英語の文はどのような構造を持っているかを解明する。
著・編者名	中島文雄	
出版社・出版年	岩波新書（1980年）	

## 【フランス文学フランス語学専修】

書名	モンテーニュ — 人生を旅するための7章 —	隠居を好み〈わたし〉について思索した16世紀のモンテーニュ。本書はエッセイというジャンルの元祖『エッセー』の魅力を旅や読書などのテーマから紹介。フランスの精神的態度の源流が垣間見える。
著・編者名	宮下志朗	
出版社・出版年	岩波新書（2019年）	
書名	ラ・ロシュフコー箴言集	17世紀の宮廷社会を背景に、複雑に入り組んだ人間関係を皮肉に考察した人間観察の書。全ての行動の起源にある愛は何か？
著・編者名	ラ・ロシュフコー	
出版社・出版年	岩波文庫（1989年）	
書名	カンディード 他五篇	「神が世界を創ったのなら、なぜ悪が存在するのか」という命題を扱った18世紀の哲学的冒険小説の傑作。
著・編者名	ヴォルテール	
出版社・出版年	岩波文庫（2005年）	
書名	赤と黒 〈上〉〈下〉	王政復古という閉塞した時代に生まれた貧しい青年ジュリアン・ソレルの野心と恋の物語。
著・編者名	スタンダール	
出版社・出版年	岩波文庫（2011年）	
書名	レ・ミゼラブル（全5巻）	19世紀フランス文学の大河小説。一切れのパンを盗んだために投獄されたジャン・ヴァルジャンの波乱万丈な人生を描く物語。ミュージカルや映画にもなった世界的な名作。
著・編者名	ヴィクトル・ユゴー	
出版社・出版年	新潮文庫（1967年）	
書名	フランス名詩選	中世から20世紀までのフランス詩100篇を年代順に編んだ詩集。ページをパラパラめくりながら、個性的なフランス詩人たちの珠玉の言葉を味わってください。日本語訳および簡潔な解説付。
著・編者名	安藤元雄、入沢康夫、渋沢孝輔編	
出版社・出版年	岩波文庫（1998年）	
書名	夜の果てへの旅 〈上〉〈下〉	人間の悲惨と滑稽を極限まで追及した20世紀小説の金字塔。「呪われた作家」セリーヌの処女作にして代表作。
著・編者名	ルイ＝フェルディナン・セリーヌ	
出版社・出版年	中公文庫（2003年）	
書名	異邦人	「今日ママンが死んだ」。ムルソーの無関心は何を意味するのか。ノーベル賞作家カミュの名作。
著・編者名	アルベール・カミュ	
出版社・出版年	新潮文庫（1995年）	
書名	ベルサイユのばら（完全版）	問答無用の傑作。加えて池田先生のネタ本シュテファン・ツヴァイク『マリー・アントワネット』（角川文庫）と『ベルばら』を書き換えた吉川トリコ『マリー・アントワネットの日記』（新潮文庫）を読めば完璧。
著・編者名	池田理代子	
出版社・出版年	集英社（2005年-2006年）	
書名	読んでいない本について堂々と語る方法	大学生になったら本を読まなきゃって思うけど、でも苦手…。と不安になっている皆さんに最適な本。本を読まずに学生生活をすませたかったら、まずは本書をじっくり読んでください。
著・編者名	ピエール・バイヤール著/大浦康介訳	
出版社・出版年	ちくま学芸文庫（2016年）	
書名	フランス語を知る、ことばを考える	フランス語をこれから学習する人たちに対して、フランス語はどういう言葉なのかを、素朴な疑問を出発点として、わかりやすく説明しています。
著・編者名	石野好一	
出版社・出版年	朝日出版社（2008年）	

書名	フランス語の発想 日本語の発想との比較を通して	日本語で「バゲット」はフランスパンのこと。でも、フランス語のbaguette（バゲット）は「パン」だけでなく、「つえ」も「指揮棒」も表す。この違いの根底には、フランス語と日本語の「発想」の違いがある。
著・編者名	春木仁孝・岩男考哲	
出版社・出版年	くろしお出版（2021年）	
書名	言葉に心の声を聞く －印欧語・ソシユール・主観性－	言葉の科学の誕生から今日までを、言葉における心のメカニズムの発見をたどる形で概観しつつ、多くの具体例に基づいて最新の研究動向を紹介しています。
著・編者名	阿部宏	
出版社・出版年	東北大学出版会（2015年）	
書名	言語学の教室 －哲学者と学ぶ認知言語学	「誰かが私に話しかけてきた」は言えるけれど「私が誰かに話しかけてきた」と言わないのはなぜ？言葉の不思議を味わう本。
著・編者名	西村義樹・野矢茂樹	
出版社・出版年	中公新書（2013年）	
書名	現代フランス社会を知るための 62 章	社会問題、文化、教育、経済、政治など、様々な角度から現代のフランス社会の姿がうかがえる。
著・編者名	三浦信孝、西山教行編	
出版社・出版年	明石書店（2010年）	
書名	フランス語のはなし －もうひとつの国際共通語	フランス語は、フランス人だけのものではなく、多くの国で公用語か共通語として使われる。本書では、カナダ人の著者が「国際言語」の観点から、フランス語の歴史、様々な国におけるフランス語の事情を紹介する。
著・編者名	ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ	
出版社・出版年	大修館書店（2008年）	

## 【ドイツ文学ドイツ語学専修】

書名	びっくり先進国ドイツ	元NHKのドイツ駐在員で、長くドイツに住んでいる著者が教えてくれる、ドイツの現在。ドイツの長所と短所を指摘した楽しい読み物である。
著・編者名	熊谷徹	
出版社・出版年	新潮文庫（2007年）	
書名	ゲーテさんこんばんは	文豪ゲーテの多彩な活動をエッセイで紹介。石、植物、気象、水彩画、劇場、イタリア旅行…〈自然〉と〈芸術（人間が作ったもの）〉を自分で見極めようとする姿を活写。
著・編者名	池内紀	
出版社・出版年	集英社文庫（2005年）	
書名	ドイツ史10講	ローマ・ゲルマンの世界から現在の統一ドイツまでの通史早わかり。
著・編者名	坂井榮八郎	
出版社・出版年	岩波新書（2003年）	
書名	ドイツ語のしくみ〈新版〉	「文字と発音のしくみ」、「文のしくみ」や「人と時間のしくみ」、「〈てにをは〉のしくみ」など、さまざまな〈しくみ〉を通してドイツ語をわかりやすく解説。
著・編者名	清野智昭	
出版社・出版年	白水社（2014年）	
書名	節英のすすめ	言語社会学者が、節度を持って英語を使う「節英」を提案。ドイツ語のような英語以外の言語を学ぶ意義や多文化共生について考えるためのヒントがつまっている。実体験に基づくため説得力があり、ユーモアもあって楽しめる。
著・編者名	木村護郎クリストフ	
出版社・出版年	萬書房（2017年）	
書名	初版グリム童話集 〈1〉～〈5〉	よく知られている『グリム童話集』が最初に出版された時の姿を伝える『初版グリム童話』。のちに削除されるエロチック・グロテスクな要素が見られ、グリム兄弟の改訂方針を知る手がかりになる。
著・編者名	グリム兄弟	
出版社・出版年	白水Uブックス（2007年・2008年）	
書名	モモ	20世紀後半を代表するファンタジー文学作家エンデの代表作で、とても読みやすい作品である。
著・編者名	ミヒャエル・エンデ	
出版社・出版年	岩波少年文庫（2005年）	
書名	カフカ短編集	奇妙な作品を多く書いて世界的に有名な作家カフカの短編集である。カフカの短編は読みやすいので一読を勧める。
著・編者名	フランツ・カフカ	
出版社・出版年	岩波文庫（2004年）	
書名	戦後ドイツ — その知的歴史	ナチズムやユダヤ人虐殺などの過去との対峙、また東西ドイツの分裂と再統一、経済大国化とヨーロッパの牽引役の経験を、さまざまな〈知識人〉の言動に即して批判的に検証。
著・編者名	三島憲一	
出版社・出版年	岩波新書（1991年）	
書名	本の読み方—スロー・リーディングの実践	〈速読の効用〉にだまされない！ 情報氾濫の現状だからこそ、細部をすくい上げて考える〈スロー・リーディング〉が大事と、実例を挙げて主張。カフカの短編「橋」の例も面白い。
著・編者名	平野啓一郎	
出版社・出版年	PHP文庫（2019年）	
書名	マッド・ジャーマンズ ドイツ移民物語	〈移民社会〉のドイツには、東ドイツ（社会主義国）時代に労働者としてモザンビークから来た若者たちの〈異文化体験〉があった。ドイツ統一、モザンビークの内戦。現代史に翻弄された3人の数奇な人生のコミック。
著・編者名	ビルギット・ヴァイエ	
出版社・出版年	花伝社（2017年）	